



赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン

居場所を失った人への緊急活動応援助成 ～「たすけて」の声に寄りそうために～

中央共同募金会は、持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

応募要項

1. 趣 旨

国の自粛要請の解除が進む中、経済活動が再開される一方、生活面では STAY HOME が広く呼びかけられています。

一方で、虐待やネグレクトなどで家にいられない子どもや若者たち、経済状況悪化のため仕事や家を失った人々、家に留まらなければならないストレスから家庭内暴力（DV）のおそれが高まっている家庭など、様々な理由から居場所を失い、孤立する人々の生活課題が顕在化してきています。

こうした人々に対し、感染防止に努めながら相談に乗り、必要な制度の利用を支援する、居場所を提供する、多様なツールを活用してつながりを作り孤立を防ぐ、などの緊急支援がさまざまな団体・機関によって展開されていますが、いずれの団体・機関も人材や活動資金は十分ではありません。

そこで、居場所を失った人々に対する緊急支援活動を資金面から支援し、このコロナ禍において「誰一人取り残さない（leave no one behind）」社会をつくることを目的として、本助成を実施します。

2. 実施主体

社会福祉法人 中央共同募金会

3. 助成対象団体

- ・ 社会福祉・地域福祉の推進を目的とする非営利の団体（法人格の有無は不問）
- ・ 応募時点で団体が設立されており、助成対象事業の実施体制が整っていること（活動年数は不問）
- ・ 反社会的勢力および反社会的勢力と密接な関わりがある団体でないこと

※反社会的勢力に該当する団体とは、暴力団、暴力団員（暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者を含む。）、暴力団準構成員、暴力団関係企業その他の反社会的勢力が助成対象事業の運営等に関与していると認められる団体をいいます。

4. 助成対象活動（事業）

新型コロナウイルスの影響により、孤立が加速化し、居場所が失われた人や経済的困難に陥った人々に対する次のような緊急支援活動（事業）で、多機関連携や協働により展開されるものを対象とします。

- ・相談支援活動 例：心のケアの企画、活用できる公的支援制度の助言など
- ・生活支援活動 例：生活必需品の提供など（フードバンクについては※を参照）
- ・居場所支援の活動 例：DV、虐待被害者へのシェルター提供など
- ・つながりを作る活動 例：オンラインツール等を活用した企画など
- ・その他、孤立を防ぐための先駆的・モデル的な活動

※フードバンクについては、別途「フードバンク活動等応援助成」を実施しているため、本助成では対象外とします。

助成対象外となるもの

○本応募要項の応募趣旨に合わないもの

- 例) 他機関との連携や協働が行われる活動ではないもの。
従来からある活動で先駆性がみられないもの。
行政等の公的財源が見込まれるもの

○経費の妥当性が応募趣旨に合わないもの

- 例) 拠点整備における設備購入や修繕が主な費用となっているもの。
車両・備品の購入など組織・団体の活動維持費用となっているもの。

5. 助成事業の対象期間

2020年3月～2021年3月

6. 1活動（事業）あたりの助成額

- ・1事業あたりの助成上限額は300万円とします。
- ・公的な補助や他の団体による助成を受けていない活動（事業）を対象とします。
- ・ただし、他の助成を受けていても、経費の明確な区分が行われることを条件に応募できるものとします。
- ・第1回助成総額は3,000万円を予定しています。
- ・寄付の状況によっては、第2回目以降の助成公募を行う可能性があります。

7. 助成対象経費

基本的に活動（事業）に要する経費を対象とします（事業にかかる人件費等の管理経費を含めることが可能です）。

※2020年3月以降の活動（事業）であれば、助成応募前にかかった費用も遡って助成対象とします。ただし、その場合は領収書等の証憑を提出できることを要件とします。

※審査の際、以下の項目にあたると応募書から判断された場合は対象外とします。

- 行政等の公的財源が見込まれるもの
- 経費の妥当性が応募趣旨にあわないもの
- 費用の積算内訳が読み取れないもの

8. 審査及び助成の決定

助成決定は、本会が設置する審査委員会により、応募内容を審査し、決定します。

必要に応じ本会でのヒアリングを行い、詳細を直接お聞きすることがあります。

また、審査の結果、応募金額からの減額があります。また、支出計画の修正が必要となることがあります。

9. 応募方法・結果通知

(1) 応募期間・応募方法

応募書① (Word 形式) と応募書② (Excel 形式) に、助成応募内容を記入の上、下記応募締切日までに、応募・問い合わせ先まで電子メールにてご提出ください。

応募書様式は、本会ホームページよりダウンロードのうえご記入ください。

応募締切日 2020年6月8日(月) 必着

(2) 提出書類

新規応募にあたっては、下記提出書類を送付してください。

提出書類	送付方法
助成応募書①、② (必ず①は Word データ、②は Excel データでお送りください)	Eメールのみ
規約、会則、定款	メール・郵送
2019年度事業報告書 (ない場合は2018年度)	メール・郵送
2019年度決算資料(活動計算書/損益計算書又は収支計算書) (ない場合は2018年度)	メール・郵送
2020年度事業計画書 (ない場合は2019年度)	メール・郵送
2020年度の収支予算書 (ない場合は2019年度)	メール・郵送
直近役員名簿	メール・郵送
実施した活動または予定する活動がわかる既存の資料 (チラシ、HPの告知記事など)	メール・郵送

(3) 結果通知

助成の可否・助成額は、本会が設置する審査委員会による審査の上決定します。結果は中央共同募金会ホームページで、2020年6月下旬（予定）に公表の上、郵送にてお知らせします。

10. 都道府県共同募金会への情報提供について

共同募金会では、各都道府県でも地域福祉活動に関する助成を実施しています。本助成に応募いただいた内容について、各都道府県共同募金会と共有させていただく場合がありますのでご了承ください。

11. 助成決定後のお願い

(1) 成果の発信

本助成は、企業・市民から「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」へお寄せいただいた寄付金によって行われるもので、本会は寄付者に助成事業の進捗状況や結果を随時報告することが求められます。

そのため、助成決定後は、本助成による活動状況や成果をホームページ、SNS 等により発信してください。また、助成事業に伴い作成する印刷物や看板、備品等には、本助成による事業であることを表示してください。

(2) 助成金の送金について

助成決定後、原則として、応募時に登録された金融機関の口座に助成決定額の 2/3 の金額を送金します(7 月末を予定)。事業完了後 1 か月以内に活動・精算報告書を提出いただき、確認のうえ、最終精算送金を行います。

(3) 事業報告、決算報告書の提出

助成事業終了後、本会が定める期限までに事業報告、収支報告を提出ください。報告様式、及び証憑等の保管方法については別途ご案内します。

12. 応募書類提出先

応募書類送付専用 E メール kikin-oubo2@c.akaihane.or.jp

(郵送の場合) 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5 階

社会福祉法人 中央共同募金会 基金事業部

居場所を失った人への緊急活動応援助成担当宛

「赤い羽根共同募金」とは

共同募金は、戦後間もない昭和 22 (1947) 年に、市民が主体の民間運動として始まりました。当初、戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われ、その後、社会福祉法に基づき、現在は地域福祉の推進のために活用されています。社会の変化のなか、共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体の活動を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として、取り組まれています。

